

# 現場のプロに聞く

(株式会社 神谷製作所 神谷 仁 社長)

広報委員会 内海 実、野田 牧人



株式会社 神谷製作所 (賛助会員)

社長 <sup>かみや</sup>神谷 <sup>まさし</sup>仁 さん

インタビュー場所

埼玉県新座市馬場 2-6-5

株式会社 神谷製作所 社長室

“現場のプロに聞く”という事で今回御邪魔させていただいたのは、当協会の賛助会員であり、いつも私達の業務(本業)を支えて頂いているコア箱供給大手、株式会社 神谷製作所の神谷社長のオフィスです。

いつも現場や会社から電話で、メールで、Fax だと無理難題をお願いして、御迷惑をかけっぱなしの私たちですが、入

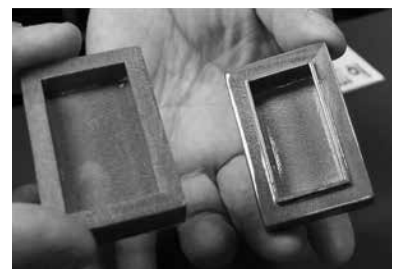
社以来お付き合いのある神谷製作所さんがどんな会社なのか何処にあるのか案外良くわかっていないことにふと気付きました。実は皆さんもあまりご存知ないかも!!という事で寒風吹きすさぶ東北から、未だ温かさの残る埼玉県新座市の株式会社 神谷製作所 社長室迄押しかけさせて頂きました。(取材日:平成27年11月20日)

お忙しい中心良く御協力頂きました、神谷社長様、専務様、社員の皆様方にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

「できないって事は今まで言った事がないんですよ!!」にこにこした顔で社長は語ります。近年計測機器の箱や記念品用の漆塗り化粧箱まで自社生産で手がけるそうで、あるときなど2m×2mの展示用標本箱の発注迄受けたそうです。そもそも発注者が「どこもやってくれる所がないのだが何とか出来ないか?」という話で持ち込まれたものだそうで、材料も規格外で制作しなけれ



株式会社 神谷製作所 新座工場



個人の方から依頼された骨箱:中までウレタンが塗られている。

ばならないし、社長自身今まで46年この世界でやって来て経験の無い様な注文だったそうです。

「普通社員に言わせるとこれは不可能ですとか、ちょっと難しいです」と言う話から入って行くんですが、「簡単だよ!」とそこから入っていく。注文を頂ければやるしかないんですから」とあっけらかんと語ります。「相手の気持ちに答える仕事をする”難しいもの”、”精密なもの”程ファイトが湧く、職人の腕の見せ所と挑んでいくのが神谷社長の気質と言ったところでしょうか。この仕事も何しろ大きなものなので納品迄いろいろな苦労があったようですが、お客さんがかなり喜んで頂けたと心底嬉しそうに語る社長に職人のプライドと喜びを見ました。



個人の方から依頼された漆塗小箱

#### 会社沿革：先ずは神谷社長の入社後を中心に、会社の沿革を伺いました

株式会社神谷製作所は昭和27年に世田谷に（有）神谷木工所として設立、測量器・気象計器等の収容箱の製造販売を手がけました。昭和35年には業務拡張のため練馬区に工場を移転、これを契機に業務を拡張し、昭和42年には株式会社 神谷製作所が設立しました。当時は五月人形用の名札から、タイトの販売店用ディスプレイ、米軍の依頼にてサウナや某一流オーディオメーカーのスピーカーボックス迄手を広げていました。現社長の入社はこの頃に遡ります。若干20歳の社長は、特にサウナについて持ち前の創意工夫でチャレンジしたそうです。コア箱についてもこの頃から制作していたそうですが、他にも木工所が多くあったその当時は得意先は50件程だったと言います。

現在の16秒に1個の割合でコア箱を制作する工場のラインはこの20歳～21歳の頃に夢想していたそうですが、「漫画までは書いたんだけど、こんな機械到底出来ないだろうなと言うことで図面までにはしなかったんですけどね。（笑）」と社長はにこやかに振り返ります。

オイルショックを乗り越え、昭和61年には工場を埼玉県新座市に移転し、20歳の頃に夢想した機械は16年の歳月を経て実現したそうです。この結果、効率の飛躍的な向上と在庫を抱える事の出来るスペースにより、得意先は50件から1000件へ飛躍的に増大して現在の基礎を作ったそうです。

**技術：**（株）神谷製作所さんは、コア箱にとどまらず私たちのポーリング現場で使ういろいろな周辺の小物から果ては家具や漆製品迄HPにあることで知られています。技術にかける思いを伺いました。

「当たり前クレームが無いことを常に心がけています。」と社長。一人でやっている訳ではないので、クレームがあると直ぐにマイクで社員を呼び出し、「キズモノはお客さんに出せない」と言う事を徹底して教え込んでいるとのこと。「コア箱は薄利なので秒単位

で作る必要がある。でもだからと言って不良品はお客様には出せない」と言う職人氣質の一面をここでも垣間見ました。

また地質調査業に従事している皆さんお馴染み（もちろん馴染みたくは無いのですが）のコア箱のカビですが、我々も半分諦めながらもやはり“カビが生えてしょうがない”と言うクレームは常にあったそうです。「この課題については一昨年克服しました」と社長。基本的に今出している製品は防カビ処理されたものだそうです。もちろん土に生えるカビはしょうがないのですが、我々には朗報ですよ。

土質瓶、抜き差し蝶番等特許は取っても協会に預けて使いたい方はどうぞと言うスタンスや、コストが大きくなっても底板を止める釘は頭の大きな特注の釘を使う気遣いは(株)神谷製作所のポリシーというか、プライドを見るようでした。

**人材育成：会社を語る上で特に重要なのは継続性と技術の伝承です。神谷製作所での人材育成についてお話を伺いました。**

神谷製作所の人材育成の根底には、「自分一人では成り立たない。社員を大事にしよう。」と言う神谷社長の思いがあります。社員一人一人が何でも出来るようにすると言うところにもその思いがあるようで、1日1200箱のコア箱を作り、他方で漆塗まで内製すると聞いて、それでは、それぞれ工程に専門の社員がいるのかと聞いてみると、「うちはみんな何でも出来るようになるために配置替えするんですよ。そうすると誰でも得意・不得意はありますよね。そんなときは克服する様に配置するんです。2～3ヶ月も毎日同じ事をやっているとまず問題なくなります。」と言う。新人が来ると「一ヶ月我慢なさい」と言って後ろについて、その都度タイミング良くアドバイスすると言う。漆塗り迄あつかう工場です。素人さんを入れて3年位で職人にしてしまうと言うから驚きです。

神谷社長の社長室は工場内の階段を挟んだ向かいにあります。われわれが社長を訪問した時には秋も深いというのに社長室のドアは開け放たれていました。「段取りで理解出来ない事があればいつでも聞きに来なさい」と、いつでも社長室のドアは開けているようで、社員が相談に来たら、まずはどういう風に考えているか喋らせて、思っている方法でやらせてみる。そうすることでそれまでの段取りの確かさを確認したり、新たな見方で見直すことにもなるとも言います。個々の職人に自分の考えを語らせ、やって見させて、そこから学ばせる手法と、さらに、そんな目下の職人から提出された考えに対して、社長自らが検証して学ぼうとする姿勢にも、我々が学ぶところは多いと感じました。

神谷社長はこうも語ります「社員の意識をどの様に上げていくかが常に課題ですね。自分も職人なので作って納めた時に「綺麗だね」と言われるのが嬉しいんですよ、そういうところを社員全員にわかって欲しくて何かにつけ社員に話をしています。」

「社員には働きに来てもらっているけれど、使っていると言う意識は持っていない。一人の職人として何でも自発的にやって貰いたい」と言う思いがあるようで、そんな話を伺うに付け、社員教育と言うより親方として一人前の職人を育て上げる姿勢を感じます。

「うちは8:30始業だけれど7:30には九割の社員が出社しています。みんな7:30に来て掃除をしたりカンナを研いだり、ゴミひとつ落ちていないようにしている。事務の方でも始業前にその日やることの打ち合わせを完了している。でも全部自発的なんです。それが誇れると言うのは素晴らしいと思っています。」満足そうにそう語る社長の笑顔が印象的でした。



コア箱の貼り合わせ工程



コア箱の蓋の切断工程



コア箱の塗装工程



事務所の様子

### <取材を終えて>

この仕事について20年になりますが、コア箱の作り方(特に先ず箱を組み上げてから、蓋と胴を切り分けるところなど)を初めて知りました。目からウロコ状態です。

また、声しか知らなかった電話の向こう側の方々にもお会い出来ていい機会になりました。皆様本当にどうもありがとう御座いました。